

説教：神の最後の勝利の葡萄園(10～11)

聖書：マルコ 12章12～17節

<口語訳>

新約聖書72～ 頁

マルコ 12章12～17節

<新共同訳>

新約聖書87～ 頁

マルコ 12章12～16節

<新改訳第3版>

新約聖書91～92節

マルコ 12章12～17節

<塚本訳>

新約聖書47～48頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マルコ書**は、使徒ペテロに仕えた**マルコ**の書で、**神のしもべなる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**召天者記念礼拝**はにあたり、**神の御子イエス・キリスト様**のエルサレムで、十字架の死の苦しみに会われる週の葡萄園の譬えと納税問答の箇所からです。
- ◇本日は、**マルコ12:12~17節**の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**神の最後の勝利の葡萄園(10~11)**」は、「悪い小作人と納税の問答」が、扱われ、**神のしもべも納税(人頭税)の義務は負うが、支配者(皇帝等)の権力者からは、全く自由であることを示されました。**
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、罠にかけ、死に追いやろうと目論む**ユダヤ人指導者**や**ヘロデ党**ら対して、偽善を見抜き、銀貨の肖像を問われました。
- ⇒当時、ローマの属国となっていた**ユダヤ人々**に税が課せられ、人々は、これを嫌っていた。

本論；

◇本日、マルコ書12章12～17節から主の使信に思い・心 $\nu\omicron\upsilon\varsigma$ (nouj)をとめます。

◆マルコ12章12～17節；神のしもべマルコは、「**神の最後の勝利の葡萄園**(10～11)」との主のみことばを通して、「**神(天)の国**」の隠されている「**神の真理・真実**」を示しています。

◇**マルコ12:12～17節**；塚本訳◆

悪い小作人<1～12>

12 彼らはイエスが自分たちに当て付けてこの譬を言われたことを知ったので、(怒って)イエスを捕えようと思ったが、民衆(が騒ぎ出すの)を恐れた。それで、イエスをそのままにして立ち去った。

◆納税問答<13～17>

13 それから彼らは数人のパリサイ人とヘロデ党の者とを、イエスの所にやった。その言葉尻をとらえ(て訴え出)ようとするのである。

14 その人たちは来てイエスに言う、「先生、あなたは正直な方で、だれにも遠慮されないことをよく承知しております。人の顔色を見ず、本当のことを言って神の道を教えられるから

です。(それでお尋ねしますが、わたし達は異教人である) 皇帝に、税を納めてよろしいでしょうか、よろしくないでしょうか。納めるべきでしょうか、納めるべきでないでしょうか。」

15 イエスは彼らの偽善を見抜いて言われた、「なぜわたしを試すか。デナリ銀貨を持ってきて見せなさい。」

16 持ってくる、と言われる、「これはだれの肖像か、まただれの銘か。」「皇帝のです」と彼らが言った。

17 イエスは言われた、「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返せ。」彼らはイエスに驚いてしまった。と、**神のしもべマルコ**は主のことばを語っています。

◆**マルコ12:12**；「彼らはイエスが自分たちに当て付けてこの譬を言われたことを知ったので、(怒って)イエスを捕えようと思ったが、民衆(が騒ぎ出すの)を恐れた。それで、イエスをそのままにして立ち去った(12)」は、「**葡萄園の悪い小作人・農夫**」の譬えの最後の部分で、主を罫に掛けようと目論む**ユダヤ人指導者**らをさす譬えでした。

⇒彼らは、主を救世主かどうか試したのです。

⇒密かに、ローマから民を開放するメシヤ(救世主)であることを主に期待していましたが、自分たちが信じる預言者と預言のことばに一致しないようにも、感じ、疑っていたのです。

⇒悪い小作人・農夫に、自分たちが譬えられてると感じて、指導者らは、怒りさえ覚えていた。

◆**マルコ1:13~17**；「それから彼らは数人のパリサイ人とヘロデ党の者とを、イエスの所にやった。その言葉尻をとらえ(て訴え出)ようとするのである(13)」、「その人たちは来てイエスに言う、「先生、あなたは正直な方で、だれにも遠慮されないことをよく承知しております。人の顔色を見ず、本当のことを言って神の道を教えられるからです。(それでお尋ねしますが、わたし達は異教人である)皇帝に、税を納めてよろしいでしょうか、よろしくないでしょうか。納めるべきでしょうか、納めるべきでないでしょうか。」(14)」、「イエスは彼らの偽善を見抜いて言われた、「なぜわたしを試すか。デナリ銀貨を持ってきて見せなさい。」(15)」、「持ってくると、言われる、「これはだれの肖像

か、まただれの銘か。」「皇帝のです」と彼らが言った(16)」、「イエスは言われた、「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返せ。」彼らはイエスに驚いてしまった(17)」と、「皇帝に納税する嫌っているながら」、「納税すべきか」と問う偽善を主は見抜かれ、「銀貨の肖像」を問い、「カイザル(皇帝)」のものと答えるユダヤ人に、「カイザルのものは、カイザルに、神のものは神に返せ」と、主はお答えになったのです。

⇒当然、属国である以上、納税義務は果たすべきで、それ以上に、カイザルのみならず、全ての権威・権力は、神の下にあることを認めるべきであると、主は仰せになったのです。

⇒彼らは、主が、ユダヤ人として、納税義務はないとの答えを期待していたので、裏切られた思いで驚き、「神のものは神に返せ」のみことばに脅威をおぼえたのです。

⇒彼らは、十戒の律法の定めから、神の御名をみだりに唱えてはならない信じる伝統、言い伝えに心が縛られていたからです。

⇒主の譬えの葡萄園の主人は、**神**であり、
葡萄園は、イスラエルの人々である。

(バークレー;339頁:イザヤ5:1~7)

イザヤ5:1~7;【口語訳】

- 1 わたしはわが愛する者のために、そのぶどう畑についてのわが愛の歌をうたおう。わが愛する者は土肥えた小山の上に、一つのぶどう畑をもっていた。
- 2 彼はそれを掘りおこし、石を除き、それに良いぶどうを植え、その中に物見やぐらを建て、またその中に酒ぶねを掘り、良いぶどうの結ぶのを待ち望んだ。ところが結んだものは野ぶどうであった。
- 3 それで、エルサレムに住む者とユダの人々よ、どうか、わたしとぶどう畑との間をさばけ。
- 4 わたしが、ぶどう畑になした事のほかに、何かなすべきことがあるか。わたしは良いぶどうの結ぶのを待ち望んだのに、どうして野ぶどうを結んだのか。
- 5 それで、わたしが、ぶどう畑になそうとすることを、あなたがたに告げる。わたしはそのまがきを取り去って、食い荒されるにまかせ、そのか

きをとりこわして、踏み荒されるにまかせる。

6 わたしはこれを荒して、刈り込むことも、耕すこともせず、おどろと、いばらとを生えさせ、また雲に命じて、その上に雨を降らさない。

7 万軍の主のぶどう畑はイスラエルの家であり、主が喜んでそこに植えられた物は、ユダの人々である。主はこれに公平を望まれたのに、見よ、流血。正義を望まれたのに、見よ、叫び。

⇒イスラエルは、甘い葡萄の収穫を期待されたのに、できたのは、酸っぱい葡萄であったのです。

⇒主を試みる、疑う、以前のイスラエルの指導者は、食するに相応しくない酸っぱい葡萄であった。

⇒葡萄の木が悪いのでは、育て、管理する葡萄園の管理者の管理が不行き届きなのである。

⇒葡萄は、痩せ地でも育つと言われていますが、水はけのよう地が必要で、施し、栄養管理が必要です。

- ⇒私の実家にも、かつて葡萄の木が清水池の側にありましたが、管理が悪く、小さく酸っぱい葡萄しか収穫できませんでした。
- ⇒ところが、山上の西条柿や富裕柿、無花果は、先祖の管理と手入れは良く、何時も甘いものでした。
- ⇒教会も、多くの方々から、甘美な味のある生活の心と雰囲気期待されています。一度に仕上がるものではなく、地道に育て出来上がるもので、週gとの礼拝や祈り会や個々人の霊的主との交わりと祈りの生活において良い実が結べるのです。
- ⇒木自体は、実の良しあしは、分かりません。それを知る者は、育て管理する人と、それを味合う人です。教会の交わりにある人々であり、**神**が色々な方法で、教会に招き寄せて下さった方々です。
- ⇒ローマ9:22～26;【口語訳】
- 22 もし、神が怒りをあらわし、かつ、ご自身の力を知らせようと思われつつも、滅びることになっている怒りの器を、大いなる寛容をもって忍ばれたとすれば、

23 かつ、栄光にあずからせるために、あらかじめ用意されたあわれみの器にご自身の栄光の富を知らせようとされたとすれば、どうであろうか。

24 神は、このあわれみの器として、またわたしたちをも、ユダヤ人の中からだけでなく、異邦人の中からも召されたのである。

25 それは、ホセアの書でも言われているとおりである、「わたしは、わたしの民でない者を、わたしの民と呼び、愛されなかった者を、愛される者と呼ぶであろう。

26 あなたがたはわたしの民ではないと、彼らに言ったその場所で、彼らは生ける神の子らであると、呼ばれるであろう」。

27 また、イザヤはイスラエルについて叫んでいる、「たとい、イスラエルの子らの数は、浜の砂のようであっても、救われるのは、残された者だけであろう。

⇒愛子は、主ご自身で、**神の寛大、神の信頼、神の忍耐**が、示されている。そして、**神の正義の究極的勝利**である(バークレー)。

⇒試みる者は、去って行くのです(12)。

⇒納税の問題では、ヘロデの子アケラオが愚かで、究極的にローマの直接税を赦し、多くのユダヤ人が納税を奴隷支配と理解し、反発していたのです。

⇒指導者は、主の奇蹟の力を政治利用としたのですが、失敗し、去り行くこととなります。

⇒主は、銀貨に刻まれた肖像が、だれのものかを問い、「カイザルのものです」との答えに対し、「カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい」と、お答えになったのです。

⇒市民として、納税は忠実に果たし、神が、皇帝も、民全体も支配しておられることを認め、神に栄光を帰すように暗黙のうちにお示しになったのです。

⇒ローマ13:1～4;【口語訳】

1 すべての人は、上に立つ権威に従うべきである。なぜなら、神によらない権威はなく、おおよそ存在している権威は、すべて神によって立てられたものだからである。

2 したがって、権威に逆らう者は、神の定めにそむく者である。そむく者は、自分の身にさ

ばきを招くことになる。

- 3 いったい、支配者たちは、善事をする者には恐怖でなく、悪事をする者にこそ恐怖である。あなたは権威を恐れないことを願うのか。それでは、善事をするがよい。そうすれば、彼からほめられるであろう。
- 4 彼は、あなたに益を与えるための神の僕なのである。しかし、もしあなたが悪事をすれば、恐れなければならない。彼はいたずらに剣を帯びているのではない。彼は神の僕であって、悪事を行う者に対しては、怒りをもって報いるからである。

⇒真の権威は、権力ではなく、天地万物を支配なさる神にあり、全ての権力は、神の権威に服するものなのです。

⇒真の権威は、無から有を創造でき、個々に与えて下さる賜物に従って、生かすものです。

⇒ユダヤ人指導者、ヘロデ党の者、皇帝らは、権力支配と自分の利益となることをなすが、新しい創造的な生き方は示せず、寧ろ貧しい人々から搾取したのです。

⇒教会は、愛の神の権威に服し、世に仕えたい。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇マルコ書は、使徒ペテロに仕えたマルコの書で、神のしもべなる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇召天者記念礼拝はにあたり、神の御子イエス・キリスト様のエルサレムで、十字架の死の苦しみに会われる週の葡萄園の譬えと納税問答の箇所からです。
- ◇本日は、マルコ12:12~17節の箇所から、「神(天)の国」「神の真理・真実」の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「神の最後の勝利の葡萄園(10~11)」は、「悪い小作人と納税の問答」が、扱われ、神のしもべも納税(人頭税)の義務は負うが、支配者(皇帝等)の権力者からは、全く自由であることを示されました。
- ⇒「御子イエス・キリスト様」は、罠にかけ、死に追いやろうと目論むユダヤ人指導者やヘロデ党ら対して、偽善を見抜き、銀貨の肖像を問われました。

⇒当時、ローマの属国となっていたユダヤ人々に税が課せられ、人々は、これを嫌っていた。

⇒「**神の最後の勝利の葡萄園**(10～11)」で、生かされている**神の農夫・小作人、しもべ**として、甘い葡萄を神におささげできる者とならせて頂きたいと願います。

⇒「善なる忠実なしもべよ」と、主に呼んで頂きたいと願いたく思います。それが、主のしもべへの最高の報酬ですから。

⇒1コリント6:19～20;【口語訳】

19 あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。

20 あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい。